

A 211 中年婦人の肥満に関連する要因について
帝国女子大 ○浅野真智子 利田希久
帝国女子大 深藏紀子

目的 今春より本学に一般市民を対象とした栄養・食物相談室を開設した。受診者のほとんどが中年婦人で、肥満に関する相談が多かったことから食事摂取内容を調査し、肥満と関連する要因について検討した。

方法 調査時期 1982年2月～6月、調査対象 30～69才の女子 330名、調査方法は前日/日分の食事内容を聞き取り診断した。計算には桌上コンピュータ・キヤノンSX-350, CX-1を用いた。

結果 標準体重から各人のエネルギー基準量(A)を求め、摂取量(B)との比をみた。受診者の年代が進むにつれてB/A 110%以上の者が増えたが、肥満度とB/Aの間には相関関係はみられなかった。肥満度と関連する食品群別摂取量では、嗜好飲料($p < 0.01$)に正の相関が、砂糖($p < 0.1$)、野菜($p < 0.05$)に負の相関がみられた。B/Aと食品群別摂取量の間には、すべての食品群に有意な正の相関($p < 0.01$)がみられ、特に穀類、動物性食品、菓子の相関性が高かった。肥満度20%以上、B/A 120%以上の肥満者46名において全体の摂取量は多かったが、中でも嗜好飲料と菓子の摂取量は平均摂取量の倍と多量に野菜の摂取量が少なく、基準の1/2量以下の者が40%に及んでいた。